

いただきます



学校給食がはじまった頃

前回、お知らせしておりましたとおり、1月27日のよつば朝会では、地域の小出精(こいであきら)さんをゲストにお迎えして、戦争中から戦後にかけての給食の様子についてお話をいただきました。小出さんは、当時のことをビックリするほどくわしく記憶していらっしゃいます。もう、65年も前のことなので、若干事実が前後するかもしれないとお断りになってお話ししてくださいましたが、仙台市の給食の記録と照らし合わせてみてもほぼ一致するので、実体験に基づく貴重なお話を伺えて、とても勉強になりました。



また、その頃の町の様子などは想像もつかないだろうと、仙台の歴史に関する写真集も貸していただいたので、それと合わせて当時の給食の写真をスライドで見ながら、お話をきくことができたので、なおさら、興味深く聴けたようです。

今回は、朝会の限られた時間内では、十分にお話できなかった部分も含めて、小出さんのお話を紹介します。

小出さんの小学生時代:戦争中は・・・

小出さんは、木町通小学校に昭和18年4月から24年の3月まで通っていたそうです。戦争中は基本的にはお弁当を持って学校に通うのですが、時々、栄養を補う食べ物や飲み物が出ることもあったそうです。

でも、たいてい少しの量で、今の給食とは全然違います。なぜか、どんなものが出たのかいろいろと思い出せますし、味さえも思い出せると言っておられました。

戦争中の給食とか補助食品としては・・・

- ・ 肝油 2粒くらい
- ・ わかめのみそ汁：今と同じようなみそ汁で、おいしかったです。
- ・ 野菜の塩汁
- ・ 小さめの丸パン：今のパンのような中が真っ白ものではなかった。
- ・ バター一切れ：担任の先生がバターの塊を持って、バターナイフで角砂糖 2個分くらいに切り分けながら、子どもの口に入れてくれた。
- ・ ごった煮雑炊



「ごった煮雑炊」の思い出①

これは、昭和20年の春の頃から始まったと思いますが、朝に子どもたち全員のお弁当や握り飯などが集められて、用務員室の大きな釜に全部いっしょに入れられるのです。そこに用務員さんが水を加えて量を増やして、雑炊に作り直し、ブリキのバケツに分けて各教室に配られるのです。味や色はその日のみんなのお弁当次第でまちまちでしたが、栄養をつけるために魚粉を入れていたために、必ず魚粉の臭いはしたものです。

きつとお弁当を持ってこられない人もいたので、このようなことをしたのだと思いますが、みな、ごちゃませなのですから、おいしいものではありませんでした。

「ごった煮雑炊」の思い出②

決しておいしいとはいえない「ごった煮雑炊」ですが、忘れられない思い出があります。昭和20年の5月だったと思いますが、雲一つない晴天のある日のこと、雑炊を食べ始めた時に何と空襲警報のサイレンの音！ただちに全員が校庭に整列し、決められた方向に避難したのですが、手に手に大切に持っていたのは、この雑炊の丼でした。

それほどまでに食べ物を大切にしようとする心がけが行き届いていたのですね。

結局、空襲は、その日はありませんでした。しかし、ずーと後になって知ったのですが、この日、米軍機は2か月後の仙台空襲に備えて、仙台の町の写真を何枚も撮っていたらしいのです。

小出さんの小学生時代：戦後のころ

戦後は、ますます食べるものが不足しました。家々では、庭で野菜をつくり少しでも栄養をとろうと工夫していました。この頃から、日本の子どもの発育の悪さを懸念したユニセフから缶詰などいろいろな物資が届くようになりました。

トマトジュース

各教室ごとにブリキのバケツに入ったトマトジュースが配られて、それを先生が各自の器におたまですくって入れてくれるのを飲みました。器は、家から持ってきたコップはまだしも、弁当箱やそのフタなどにも入れてもらって飲んだのですよ。

日本ではそれまでトマトジュースというものはなかったので、みなその味に慣れてなく、しかも今のジュースより味がまずかったので、お腹は空いているのに飲まない人や残す人も少なくありませんでした。

脱脂粉乳

アメリカから送られてきた脱脂粉乳をお湯で溶かしたものです。その頃は、ブリキのバケツに入れて配られました。

フィッシュボール

魚粉(魚を干したものを砕いて粉にしたもの)を原料にして作ったたこ焼きくらいの大きさのフワフワ感のある揚げパンのような食べ物で、揚げパンよりは、もっとあっさりしているものです。4~5こを1回にいただきました。

「給食で丈夫になったこの体」

戦争から3年たった小出さん6年生の頃、給食の標語の募集があり、小出さんのお友達が考えた「給食で丈夫になったこの体」という標語が学校代表に選ばれました。

小出さんは、この標語をポスターにする絵を頼まれ、他の2名のお友達とともに、放課後残って絵を描いたそうです。

小出さんへ

2年1組 M・W

小出さん、せんそうのころのきゅうしょくのことでおしえてくれて、ありがとうございます。わたしは、このことを聞いたとき、「これからは、あまりきゅうしょくをのこさないようにしましょう」と思いました。

わたしは、これからきゅうしょくにかんしゃして食べたいと思います。

小出さん、本当にありがとうございます。

小出さんから、みなさんへのメッセージ

あれから、60年あまりたった今の給食のなんと上等なこと！あの頃に比べたら夢のようと言っても言いすぎではありません。

皆さん、こういう平和な世の中をしっかりと守っていきましょう。

この仙台市のあゆみをみると、小出さんのいた木町通小学校は戦争前から、学校給食の取り組みが進んでいる学校だったようですね。

仙台市学校給食のあゆみ

- 昭和七年 欠食児童を対象に栄養弁当を給した(日本栄養協会扱い)
- 昭和八年 木町通小学校で栄養供給開始
- 昭和十三年 木町通小学校で味噌汁を県内で初めて給した
- 昭和十五年 栄養不良児、身体虚弱児を対象にみそ汁を給した
- 昭和十九年 決戦非常時措置として一人一週一合の米を三回に分けて雑炊として給食空襲のため、中止
- 昭和二十年 終戦直後、児童の栄養失調、欠食打開のため一部校で塩汁給食を開始
- 昭和二十二年 軍用缶詰の放出により、市内全校で缶詰給食を実施
- 昭和二十二年 輸入缶詰放出(ペイン、トマトジュース、肉類、乾燥脱脂ミルク)
- アメリカより、乾燥脱脂ミルクの配給があり、ミルク給食を開始
- 昭和二十三年 ララ委員会の援助物資により、副食の内容が充実された
- 昭和二十四年 ユニセフ寄贈のミルク給食開始
- 昭和二十五年 モデル校として立町小学校が文部省指定校となり栄養士の有資格者を採用
- 昭和二十六年 国庫補助を受けて学校モデル調理室建築(木町通小、生田小)
- 昭和二十七年 **仙台市教育委員会発足**
- 昭和二十八年 市内小学校において完全給食開始(二八校中二五校)
- 昭和二十九年 市教委事務局に栄養技術職員を配置する
- 昭和二十九年 ミルク調理用木製かくはん機を、立町小学校考案し、特許取得
- 昭和二十九年 全国学校保健大会が開催され、学校給食の公開授業を行う(立町小)
- 昭和二十九年 給ときによる「学校給食のしおり」を編集し、全市児童の指導にあたる
- 昭和二十九年 薬液溜布による手指消毒を考案し、各校で実施
- 昭和三六年 夜間定時制高等学校にミルク給食開始

昭和七年

戦中・戦後の食糧難で、日本の子どもの体格は著しく悪化しました。

しかし、ユニセフなどの寄付で、戦後の給食がはじまり、脱脂粉乳などを飲むようになったおかげで、体格も徐々に元にもどっていったのです。

この頃を生きぬいた小出さんのような方は、食べ物が生きていく上でいかに大切なものか、実感していらっしゃるようで、そのお話に子どもたちも聞き入っていました。

小出さん、ありがとうございます。